鉄砲洲神社　素読論語　解説
（平成 23 年 11 月 11 日）

子罕（しかん）　第九

7　子曰く、吾 知る有らんや。知る無きなり。鄙夫有り、我に問うに空空如たり。我 其の両端を叩きて竭くせり。

孔子が言うには、皆が物知りだと云うけれど、私は決して物知りではありません。まだまだ知らない物事がたくさんある人間です。凡庸で真面目な人が私に聞いてきました。私は始めから終わりまで充分に聞いて、不合理だと思った所は問い質して、充分に意を尽くして答えています。真面目で物事を何も知らない人が質問をしてきても、そうやって答えています。

8　子曰く、鳳鳥至らず、河 図を出さず。吾 已んぬるかな。

孔子が、私の運命はもう終わりだと慨嘆している所です。鳳鳥はおおとり。河というのは亀。霊鳥と霊亀が黄河の中から瑞兆を表しています。

神秘的な内容を描いた書を背中に背負って亀が顔を出してくる。これは両方とも瑞兆である。良い兆しが起こると天下に聖人が出て、その国の王になるという言い伝えがあるけれども、一向に鳳も出ないし亀も出てこない。これは素晴らしい王が出てこないと云う事なので、私はその素晴らしい王に仕える事が出来ないから、私の人生はここら辺で終わりだな、残念だ。天が私の事を一向に愛してくれないので、がっかり絶望をして慨嘆をしたと云う所です。

先程の「山行」杜牧のところで＜愛＞といいましたが、愛の語源をたどると、人に食べ物をあげるのが愛なので、アメリカ人夫婦がよくアイラブユウと言いますが、常に食べ物を何か添えて出すと、この日本の愛と云う語源に似ているぞと少しここで感じました。

9　子 斉衰の者と冕衣裳の者と瞽者と見るに、之を見れば少しと雖も必ず作つ。之を過ぐれば必ず趨る。

子衰は喪服のこと、冕衣裳の者は貴い身分の人、貴人。瞽者は盲の人。世襲の音楽師は、自分で盲にするという風習があります。

孔子は盲の人に詩経を習ったので敬意を払って、喪服を着ている人、貴人、同じ様に盲の人で音楽師を見た場合には、その人が若い人でも自分が座っていたら必ず立ち上がり、自分がその人達の前を通り過ぎる場合は小走りをしてそれぞれの人に敬意を払っています。